

# I . 学芸活動

## 1 展 示

### (1) 企画展示会

ア のぞいてみよう！身近な草花

期 間 4月26日(土)～6月1日(日)

イ 南洋への憧れ

—熊本博物館収蔵海外資料展—

期 間 6月13日(金)～7月13日(日)



チラシ表



チラシ裏

ウ ここが面白い！昆虫いろいろ

期 間 7月19日(土)～8月31日(日)

エ 鳩太郎がゆく！

—肥後藩士吉田鳩太郎がみた幕末維新—

期 間 9月6日(土)～10月13日(月・祝)



チラシ表



チラシ裏

オ 江戸の化粧術

—武家婚礼化粧道具を中心に—

期 間 10月25日(土)～11月24日(月・祝)

カ 稲荷山古墳の出土遺物

期 間 12月2日(火)～1月18日(日)



チラシ表



チラシ裏



出品一覧(表)



出品一覧(裏)

キ 博物館のお仕事展

期 間 1月24日(土)～2月22日(日)

ク しってるカイ？くまもとの軟体動物化石展

期 間 2月28日(土)～4月5日(日)



チラシ表



チラシ裏

ア 期間 4月26日(土)～6月1日(日)  
 イ 会場 特別展示室  
 ウ 主催 熊本博物館  
 エ 趣旨

身近な植物の標本や写真を展示し、形態の特徴や役割等を紹介する。

オ 展示構成

- (1) 根、茎、葉のはたらき
- (2) 花のつくりとかたち
- (3) 種子の広がる方法
- (4) 草花であそぼう

## (2) ロビー展示会

ア 熊本博物館と黒川紀章

期間 4月26日(土)～6月29日(日)

イ 藤崎台のクスノキ群

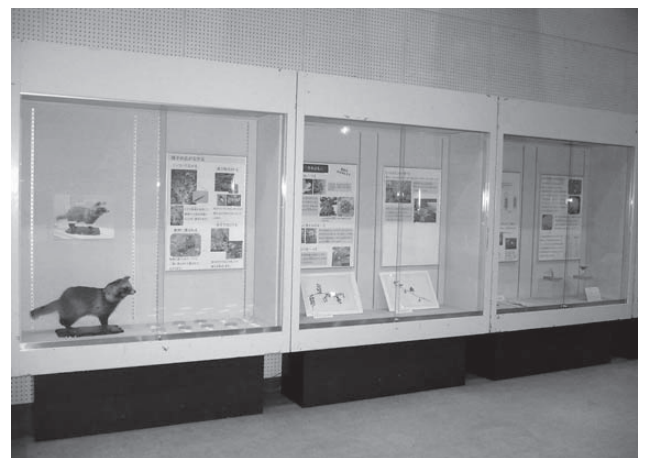
期間 7月1日(火)～9月28日(日)

ウ 特別史跡 熊本城跡

期間 10月1日(水)～12月28日(日)

エ 熊本城跡と熊本博物館

期間 1月6日(火)～3月31日(火)



会場様子

## (3) 定例展示会

第48回 肥後しゃくやく展

日時 5月5日(月・祝)、6日(火・振休)

会場 塚原歴史民俗資料館 研修室

入場者 131名

## (4) 共催展

第54回 肥後朝顔秋の展示会

日時 9月5日(金)～9月7日(日)

会場 熊本市動植物園

入場者 292名

# 2 企画展示会・ロビー展示会報告

## (1) 企画展示会

企画展「のぞいてみよう！身近な草花」

企画展「南洋への憧れ

—熊本博物館収蔵海外資料展—

ア 期間 6月13日(金)～7月13日(日)

イ 会場 特別展示室

ウ 主催 熊本博物館

エ 趣旨

熊本博物館収蔵資料の中には海外から集められたものも多くある。その一部はミクロネシアの島々を中心に、いわゆる「南洋」から集められたものであった。明治維新後、日本人は「南洋」に対して幻想や憧れを抱き、柳田國男が「南島は我々の故郷」と評するまでの存在となった。

第一次大戦後、日本は国際連盟からの委任統治の命を受けて、北マリアナ諸島・パラオ・マーシャル諸島・ミクロネシア連邦を統治することになると、人々の南洋への関心はより深まっていった。こうした中、熊本では博覧会が開かれ、南洋の品々も展示

される。このような時代背景のもと集められた資料を紹介する。

#### オ 展示構成

##### (1) 海外への旅立ち

旅行トランク・携帯洗面道具・道中枕・懐中時計など

##### (2) 南洋の暮らし

貝貨・石貨・貝斧・カヌー・煙草入れ・貝製釣り針・貝製装飾品・影絵人形など

##### (3) 博覧会と南洋

新興熊本大博覧会誌・新興熊本大博覧会 記念画報・新興熊本大博覧会絵葉書・台湾先住民族の武器・珠裙・礼装着など

##### (4) 異文化へのまなざし

樺太アイヌの墓標など



会場様子2



会場様子3



看板



会場様子1



映像

企画展「ここが面白い！昆虫いろいろ」

ア 期間 7月19日(土)～8月31日(日)

イ 会場 特別展示室

ウ 主催 熊本博物館

エ 趣旨

最も身近な生きもの「昆虫」をさまざまな角度から紹介し、身近な自然に目を向けるきっかけとしてもらうことを目的とした。

## オ 展示構成

- (1) 翅のいろいろ
- (2) 雌雄差いろいろ
- (3) 生きるための形いろいろ
- (4) 身を守るための模様いろいろ
- (5) おもしろい生態いろいろ
- (6) 光りものいろいろ
- (7) 似たものいろいろ
- (8) 名前のいろいろ



会場様子



会場様子1



会場様子2

## 企画展「鳩太郎がゆく！

—肥後藩士吉田鳩太郎がみた幕末維新—

ア 期間 9月6日(土)～10月13日(月・祝)

イ 会場 特別展示室

ウ 主催 熊本博物館

エ 趣旨

江戸後期から幕末期にかけて江戸、京都、長崎など各地へ出張した肥後藩士・吉田鳩太郎(吉田如雪)の記録をもとに、「肥後藩が体験した幕末維新」を主題としてコンパクトに展示した。

## オ 展示構成

- (1) 肥後藩士・吉田鳩太郎
- (2) 幕末の動乱と鳩太郎
- (3) 鳩太郎が見た幕末長崎
- (4) 鳩太郎、明治の世を生きる

## 企画展「江戸の化粧術

—武家婚礼化粧道具を中心に—

ア 期間 10月25日(土)

～11月24日(月・祝)

イ 会場 特別展示室

ウ 主催 熊本博物館

エ 趣旨

「もっと美しくなりたい」と願う女性たちは、いつの時代も日夜努力を重ねてきた。本展では、江戸時代に焦点を当て、熊本博物館所蔵《梅寿帯鳥文蒔絵婚礼化粧道具》等を展示するとともに、女性たちを美しく彩ったさまざまな化粧術を紹介した。

## オ 展示構成

- (1) 梅寿帯鳥文蒔絵婚礼化粧道具
- (2) 都風俗化粧伝(パネル展示)
- (3) 熊本博物館民俗分野柄鏡コレクション

## カ 関連行事

学芸員による列品解説

11月22日(土) 14時～ 参加者4名



看板



ギャラリートーク



会場様子

企画展「稲荷山古墳の出土遺物」

ア 期間 12月2日(火)～1月18日(日)

イ 会場 特別展示室

ウ 主催 熊本博物館

エ 趣旨

稲荷山古墳(熊本市北区打越町)から出土した馬具・装身具など、豪華な副葬品を展示。

オ 展示構成

- (1) 稲荷山古墳とは
- (2) 稲荷山古墳の装身具
- (3) 稲荷山古墳の農工具
- (4) 稲荷山古墳の武器
- (5) 稲荷山古墳の馬具
- (6) 稲荷山古墳の土器
- (7) 保存修復について

出品一覧(表)

出品一覧(裏)



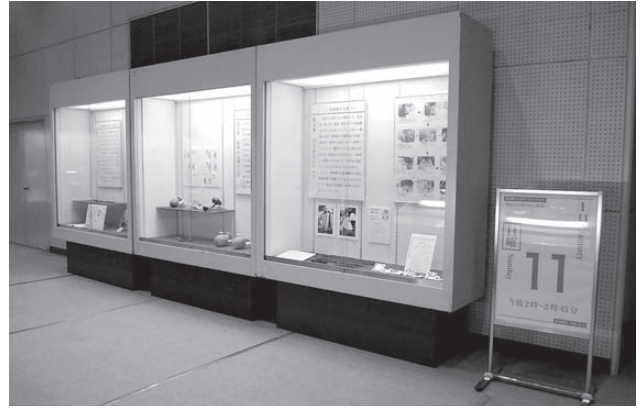
稲荷山 展示1



稲荷山 展示2



稲荷山 展示3



稲荷山 展示7



稲荷山 展示4

#### カ 関連行事

##### (1) 「稲荷山古墳出土遺物」寄贈式

12月2日(火) 11時10分～

出席者 ●熊本学園大学(寄贈者)

第12代学長 幸田 亮一 氏

総務課 吉田 光太郎氏

●熊本博物館

熊本市教育長 岡 昭二

熊本博物館長 原田 哲朗



稲荷山 展示5



寄贈式



稲荷山 展示6

##### (2) 学芸員による列品解説

①12月13日(土) 12名

②1月11日(日) 16名

いずれも14時～14時45分

##### (3) 学芸員による講演会

演 題 「稲荷山古墳の出土遺物」

12月23日(火・祝)

13時30分～15時 18名



稲荷山 講演会

#### 企画展「博物館のお仕事展」

ア 期間 1月24日(土)～2月22日(日)

イ 会場 特別展示室

ウ 主催 熊本博物館

エ 趣旨

博物館の役割や、博物館で働く学芸員の仕事について紹介した。

オ 展示構成

- (1) 博物館について
- (2) 博物館で働く人たち
- (3) 学芸員の仕事とは
- (4) 資料を守る

カ 関連行事

学芸員による展示解説

2月15日(日)14時～



会場写真



ギャラリートーク

#### 企画展「しってるカイ？」

くまもとの軟体動物化石展

ア 期間 2月28日(土)～4月5日(日)

イ 会場 特別展示室

ウ 主催 熊本博物館

エ 趣旨

熊本県内から産出した化石を中心に、過去に生息していた軟体動物の姿や、現在まで続く進化の道筋について紹介した。

オ 展示構成

- (1) 軟体動物とは？
- (2) 化石とは？
- (3) 砂や泥にもぐる二枚貝のなかま
- (4) 水中でくらす二枚貝のなかま
- (5) 巻貝のなかま
- (6) イカ、タコ、オウムガイ、アンモナイトのなかま
- (7) その他の軟体動物のなかま
- (8) 貝類ではないカイ
- (9) 貝類の天敵
- (10) 県内各地の化石



展示風景

カ 関連行事

学芸員による展示解説

3月22日(日) 14時～ 参加者17名

4月5日(日) 14時～ 参加者14名

(2) ロビー展示会

「熊本博物館と黒川紀章」

ア 期間 4月26日(土)～6月29日(日)

イ 会場 エントランスロビー

ウ 主催 熊本博物館

エ 趣旨

三の丸の地に建てられた博物館のデザインについて、黒川紀章氏の来歴や、博物館建設についてのコメントやスケッチ画、実施設計図などを紹介する。

オ 展示構成

- (1) 黒川紀章氏来歴
- (2) 熊本博物館イメージスケッチ
- (3) 博物館設計コンセプト

カ 関連行事

学芸員によるロビー展関連講座

6月21日(土) 15時30分～16時30分

「藤崎台のクスノキ群」

ア 期間 7月1日(火)～9月28日(日)

イ 会場 エントランスロビー

ウ 主催 熊本博物館

エ 趣旨

国指定天然記念物である藤崎台のクスノキ群とともに、藤崎台の歴史やクスノキ周りに生息している動植物について紹介する。

オ 展示構成



展示風景

(1) クスノキ群と藤崎台の歴史について

(2) クスノキと周辺に生息する動植物

「特別史跡 熊本城跡」

ア 期間 10月1日(水)～12月28日(日)

イ 会場 エントランスロビー

ウ 主催 熊本博物館

エ 趣旨

博物館が立地する三の丸地区を中心に、近世～近代にかけての遺跡の変遷や、これまでの発掘調査の成果を紹介する。

オ 展示構成

- (1) 特別史跡 熊本城跡とは
- (2) 絵図に見る土地利用の変遷(近世)
- (3) 地図・写真に見る土地利用の変遷(近代～現代)
- (4) 博物館建設と昭和48年の発掘成果
- (5) 平成25年度の発掘成果
- (6) 史跡の保護とリニューアル

—史跡内に立地する博物館として—

コラム「熊本城跡の出土瓦から何がわかるか」

カ 関連行事

(1) 学芸員による展示解説

①10月4日(土) 7名

②11月16日(日) 20名

14時～14時45分

(2) 学芸員による講演会

演題「特別史跡熊本城跡について」

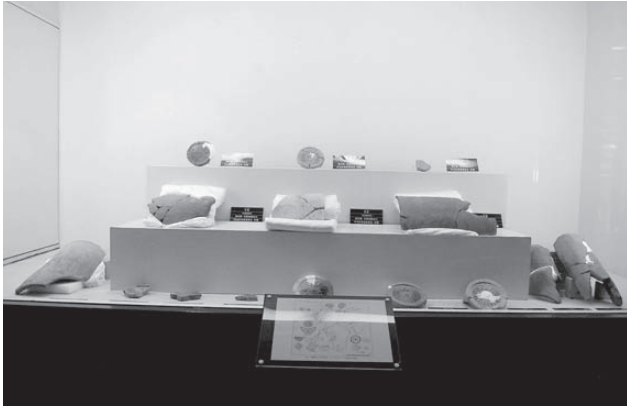
11月3日(月・祝)

13時30分～15時 参加者19名

出品一覧(表)

出品一覧(裏)





正面玄関横展示ケース



熊本城跡 展示1



熊本城跡 展示2



出土陶磁器

### 「熊本城跡と熊本博物館」

ア 期間 1月6日(火)～3月31日(火)

イ 会場 エントランスロビー

ウ 主催 熊本博物館

エ 趣旨

博物館が立地する三の丸地区を中心に、熊本城跡の変遷や、昭和53年の新館建築コンセプト(熊本城の景観に配慮した外観デザイン)についてパネル等を使って紹介する。

オ 展示構成

(1) 特別史跡 熊本城跡とは

(2) 熊本博物館について

(3) 博物館敷地内・外観図面

カ 関連行事

学芸員によるロビー展関連講座

2月22日(日) 14時～



会場写真

## 3 教育普及

(1) 観察会・見学会

6.7 肥後朝顔栽培研修会(熊本城竹之丸)

6.28 野草観察会(植物)

博物館周辺野外 12名

7.6 肥後朝顔持寄せ会(水前寺公園)

7.13 肥後朝顔栽培管理教室(熊本市動植物園)

7.21 肥後朝顔阿蘇展示会(南阿蘇村)

## (2) 教室・講座

### ア 動物学講座

小学校4年生以上、一般成人を対象とした通年の講座。毎月1回、主に第4土曜に開催。海のものから山のものまで、あらゆる動物について学び、身近な自然に親しむことを目的としている。動物としてのヒトが、自然といかに関わっていくべきかを常に考えながら学んでいる。

6.21 動物のなかまわけ	23名
7.19 企画展見学と昆虫のはなし	26名
8.24 さかなのはなし	23名
9.20 野外観察会(上江津湖)	16名
10.18 両生類のはなし	17名
11.15 野外観察会(立田山)	22名
12.13 レッドリストの動物	13名
1.24 野外観察会(下江津湖)	26名
2.21 寄生虫のはなし	19名
3.21 14年間のまとめ	19名

### イ 考古学講座

高校生以上を対象とした講座。今年度は10月～3月までの半年間、月1回(計6回)土曜日に実施。実物の考古資料を間近で観察するのが特色。なお考古学講座(初級)の修了生のうち、希望者は考古学同好会(中・上級者、会員による企画/運営)へ毎年入会している。今年度の同好会入会者(第29期)は3名。

10.18 開講式・オリエンテーション	
「特別史跡熊本城跡①」	19名
11.1 「特別史跡熊本城跡②」	28名
12.6 「稲荷山古墳の出土遺物①」	24名
1.10 「稲荷山古墳の出土遺物②」	23名
2.7 「博物館リニューアルと考古展示①」	15名
3.7 「博物館リニューアルと考古展示①②」	
閉講式・考古学同好会入会案内	19名

### ウ 古文書講座

一般成人を対象とした講座。館蔵の古文書を課題素材として、古文書を読む上で初歩的な実力を身につけることを目的としている。6月から3月までの

9回実施した(8月は台風接近のため中止)。

6.14 開講式/古文書に親しもう	35名
7.12 くずし字を見てみよう	34名
9.13 くずし字を見てみよう	36名
10.11 くずし字を見てみよう	30名
11.8 ひらがな交じりのくずし字	35名
12.13 候文に慣れよう	34名
1.10 実践的な古文書	26名
2.14 明治期の手紙を読んでみよう	28名
3.14 閉講式/古文書を読んでみよう	30名

### エ 民俗学講座

一般成人を対象とした講座。日本で行われてきた民間信仰や年中行事、そして民俗芸能などについて学習した。6月から3月までの9回実施した。講師は民俗学担当学芸員が務めた。

6.12 民俗学を学ぼうⅢ	32名
7.10 台風のため中止	
8.14 動物と民俗Ⅰ 一犬を中心に―	25名
9.11 修験道 一金峰山を中心に―	25名
10.9 民俗の近代化Ⅰ	
―農具の変容を中心に―	22名
11.13 信仰Ⅳ 一天神信仰―	21名
12.11 巡礼と観光 一民俗学の目覚め―	23名
1.8 都市と盛り場の民俗学	23名
2.12 災害の記憶と民俗学	21名
3.12 南洋への憧れ	
―海上の道をめぐって―	20名

## (3) プラネタリウム

### ア プラネタリウムの構成

- プラネタリウムドーム 直径16m
- 座席数 180席
- プラネタリウム機器
  - 光学式投映機 五藤光学 CHRONOS II
  - デジタル式投映機 五藤光学 VIRTUARIUM II
- 音響装置
- コントロールコンソール
- 補聴装置(磁気誘導ループ方式)



プラネタリウム室

## イ 投映プログラム

プラネタリウムは、4月26日（土）から投映を再開した。天文に関するさまざまな話題を紹介する一般投映番組のほか、幼児・家族向けの投映（ファミリーアワー）や、字幕付きプラネタリウムなどを実施した。また、小・中学校の学習内容に対応した投映を行った。

### 投映の時間割

曜日\時間	① 9:45~	② 11:00~	③ 12:15~	④ 13:30~	⑤ 14:45~	⑥ 16:00~
火	団体★	団体★	—	一般◆	一般	—
水	団体★	団体★	—	一般	一般◆	—
木	団体★	団体★	—	一般◆	一般	—
金	団体★ (幼児)	団体★ (幼児)	—	一般	一般◆	—
土	一般	ファミリーアワー	一般	一般	一般	一般 特別
日・祝	一般◆	ファミリーアワー	一般	一般	一般	—

- ★は、春休み・夏休み・冬休み期間中は、一般投映となります。
- ◆は、学校団体向けの投映番組になることがあります。
- 投映時間は約50分（幼児番組は約40分）です。
- 「団体」は予約がある場合の投映です。空席があるときは一般の方もご覧いただけます。
- 投映途中の入退場はできません。

### 投映時間割

#### (ア) 一般投映番組

再開に合わせて、「ダイナソートラベラーズ ～飛行の起源をさぐれ!～」を投映した。9月からは、これまで同様に、季節ごと（概ね3ヶ月ごと）に新たな番組を投映した。なお、いずれの番組でも、星空解説部分については、職員による生解説で投映当夜の星空を紹介した。

#### a 春・夏番組「ダイナソートラベラーズ ～飛行の起源をさぐれ!～」

投映期間 4月26日（土）～8月31日（日）

生物の飛行の起源に迫るとともに、恐竜絶滅の原因とも考えられている小惑星衝突について紹介した。

#### b 「むしむし星空大行進」

投映期間 7月19日（土）～8月31日（日）

星座神話にちなんだ名前の昆虫たちを通して、星や生物に親しむ内容で、四季の星座や太陽系の天体、南半球の星座などを紹介した。企画展「ここがおもしろい! 昆虫いろいろ」の関連行事として実施した。

#### c 秋番組「ジャーニー・トゥ・スターズ」

投映期間 9月6日（土）～11月30日（日）

太陽をはじめとする恒星や宇宙の歴史を最新の科学映像で紹介した。

#### d 冬番組「ロボットエクスプローラーズ

～宇宙ではたらく探査機たち～

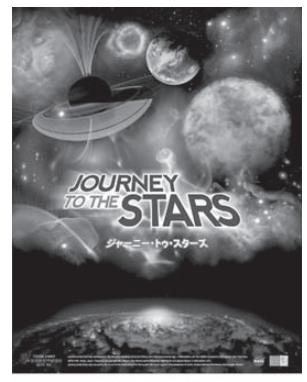
投映期間 12月6日（土）～3月1日（日）

宇宙ではたらく新旧の探査ロボットとそのミッションを紹介した。

#### e 春番組「ユニバース ～神秘と驚異の宇宙～」

投映期間 3月7日（土）～4月12日（日）

長年の研究により明らかとなってきた宇宙の姿を、迫力あるCGで紹介した。



### 番組リーフレット

(イ) ファミリーアワー

幼児から小学校低学年の子どもたちやその家族を対象に、プラネタリウムに親しんでもらう最初の機会として、毎週土曜・日曜、祝日の11時から実施した。全体の放映時間は40分で、歌や掛け声を交えて、わくわく感の増す内容とした。

放映期間 4月26日(土)～

平成27年4月12日(日)

内容 当夜の星空の紹介

「キラキラ森のなかまたち

～まほうのモーフくん～」

こぐまのコロタンたちが、コロタンの毛布(モーフくん)に乗って宇宙に飛び立つ話を通して、惑星や彗星、流星など、身近な天体について紹介した。

(ウ) 字幕付きプラネタリウム

プラネタリウムの放映は映像と音声で構成されており、聴覚に障がいのある人にとっては、通常の放映は十分なものではない。そこで、聴覚に障がいのある人も、そうでない人も一緒にプラネタリウムを楽しめるよう、字幕付きプラネタリウムを実施した。実施にあたっては、熊本県聴覚障害者情報提供センターに協力いただいた。

a 第32回字幕付きプラネタリウム

日時 6月7日(土)

9時45分～10時35分

12時15分～13時5分

放映番組 春・夏番組

「ダイナソートラベラーズ

～飛行の起源をさぐれ!～」

参加者 93名

b 第33回字幕付きプラネタリウム

日時 2月21日(土)

9時45分～10時35分

12時15分～13時5分

放映番組 冬番組

「ロボットエクスプローラーズ

～宇宙ではたらく探査機たち～」

参加者 27名

(エ) 学校団体向け放映

小・中学校の理科・天体学習の理解を深めるため、学校団体向けの放映を行った。当日夜の星空を中心に、星座、惑星、太陽・月・星の動きなどを生解説し、以下の学年に合わせたテーマ番組の放映を行った。

a 小学校1・2・3年生向け

タイトル「むしむし星空大行進」

星座神話にちなんだ名前の子供たちを通して、星や生物に親しむ内容で、四季の星座や太陽系の天体、南半球の星座などを紹介した。

放映回数 32回

b 小学校4年生向け

タイトル「スタジオ444

～空のフシギをさぐれ!～」

教科書での学習内容に合わせ、月の見え方や星の明るさ、色の違い、時刻による見え方の違いなどを説明した。

放映回数 21回

c 小学校6年生向け

タイトル「宇宙調査隊 ～月と太陽のひみつ～」

教科書での学習内容に合わせ、月の見え方と太陽・月の位置関係、月と太陽の表面の様子の違いなどを説明した。

放映回数 3回

d 中学生向け

タイトル「この空に願いをこめて・・・」

教科書での学習内容に合わせ、日周運動、年周運動、月の公転と満ち欠け、太陽系の天体、銀河系、宇宙の構造などについて説明した。

放映回数 3回

(オ) 熊本市立小学校の宿泊教室に合わせた団体放映

熊本市立小学校は、5年生時に金峰山少年自然の家にて宿泊教室を行うことから、これに合わせてプラネタリウム放映を行った。

時間 少年自然の家入所日の9時45分～

10時35分

内容 「星が見てきた KUMAMOTO」

参加校数 44校

#### (カ) 幼児団体向け投映

学校長期休業中を除く金曜日の午前（9時45分～、11時～）、幼稚園や保育園などの幼児団体向けに投映を行った。投映時間は40分で、星空の紹介（生解説）と幼児向け番組を投映した。投映期間と内容は、前述（イ）ファミリーアワーと同様である。

#### ウ その他

##### (ア) 熊本大学教育学部理科教育での活用

講義の一環として、プラネタリウムを活用した解説を行った。

日 時 10月24日（金）16時～17時  
内 容 10月8日（水）の皆既月食について  
シャルル・メシエについて  
当夜の星空と四季の星座

参加者 23名

##### (イ) 天文講演会

特別展示室（奥）を会場に、第一線で活躍されている研究者の先生をお招きし、最新の天文学・宇宙科学について講演いただいた。

演 題 今、考えられている宇宙の誕生と将来  
講 師 東海大学教授 藤下 光身 氏  
日 時 平成27年3月14日（土）

13時30分～15時

参加者 32名



天文講演会

#### (4) 同好会

##### 考古学同好会

考古学同好会は、昭和60年（1985）年3月に発足した。考古学講座（初級）を修了した方に、同好会（中・上級）への入会資格が与えられる。平成27年3月31日現在、第29期生（3名）まで入会しており、会員数は61名。原則として、毎月第3金曜日にバス見学会や室内学習会を実施している。年間計画の立案、バスの手配や保険の手続きなど運営は全て会員によって行われている。博物館が休館中のため、今年度は室内学習も館外の施設で実施。

4.18 山鹿市の史跡探訪（チブサン古墳等） 16名  
5.16 福岡県筑後の史跡探訪（王塚古墳等） 17名  
6.20 熊本博物館の現状について（美濃口） 29名  
7.25 後藤会員発表「机上で歩く京町台」 25名  
8.22 岩永会員発表「地学から見た考古学」 18名  
9.19 塚原歴史民俗資料館・貝塚等（清田） 16名  
10.17 氷川・八代の史跡見学（麦島城跡） 24名  
11.21 熊本城探訪（富田文化財専門相談員） 34名  
12.19 装飾古墳の世界（駿木正文氏） 32名  
1.16 新年会 18名  
2.27 熊本城歴史（富田文化財専門相談員） 36名  
3.20 総会 33名

#### (5) ミニ・シンポジウム

「藤崎八幡宮例大祭とまちづくり」

日 時 11月8日（土）13時30分～16時30分

会 場 特別展示室

参加者 27名

##### 基調講演

熊本大学名誉教授 安田 宗生 氏

「近現代における藤崎八幡宮例大祭の変遷」

##### 報 告

藤崎八幡宮氏子総代 毛利 秀士 氏

「新町の鉾とまちづくり」

河尻神宮宮司 宮川 経宣 氏

「河尻神宮例大祭の現状と、まちの力」

##### 総 評

藤崎八幡宮権宮司 岩下 通弘 氏

司 会 福西 大輔（民俗）



## (6) 博物館実習生の受け入れ

本年度はリニューアル準備にともなって、熊本博物館では博物館実習生の受け入れを行わなかった。

## (7) 各大学等の博物館訪問

ア 日時 8月27日(水)

9時15分～11時40分

大学名 熊本大学

内容 博物館リニューアルに関する講義  
プラネタリウムの鑑賞

参加者 学芸員養成課程 学生 58名

講師 美濃口 紀子(考古)、他(天文)

イ 日時 2月17日(火)

13時30分～14時10分

大学名 比治山大学

内容 熊本と阿蘇の祭について

参加者 学生 22名

教員 3名

講師 福西 大輔(民俗)

# 4 収集保存

## (1) 資料のデータベース化

資料のデータベース化は、収蔵庫の整理作業と並行して行っている。データベース化には、1) 資料管理の効率化 2) 特別展や企画展・移動博物館などでの資料活用の効率化 3) 貸借の履歴管理の簡便化 4) 各種問合せへの迅速な対応 5) 研究での利用促進 等の効用が考えられる。

### 分野別資料点数 (H27.3.31現在)

地質	動物	植物	理工	考古	歴史	民俗	総計
20067	58132	16662	137	10215	15045	13130	133388

## (2) 寄贈資料

ア 自然分野

9.20 ナガサキアゲハ有尾型標本

イ 人文分野

4.16 日露戦争出征兵士の手紙・写真

5.5 光永式水陸両用引型溝上機

7.16 槍(別途拵付)

7.24 天保期江戸地図ほか全34点

8.26 鉄道関連資料

10.31 都甲家関係資料5点

12.2 熊本市北区打越町稻荷山古墳出土副葬品一括  
熊本学園大学

12.3 刀(別途拵付)

3.3 熊本市島崎町石神原遺跡出土考古資料一括  
島田美術館

3.3 熊本市島崎町石神原遺跡出土考古資料一括

3.27 鎮宅霊符神鈴

## (3) 資料の利用

ア 資料の貸出

(ア) 自然分野

4.1～3.31 通潤橋木管 山都町役場

9.20～11.20 化石33点 五島観光歴史資料館

7.18～10.19 化石22点 山鹿市立博物館

(イ) 人文分野

4.1～3.31 上南部遺跡出土土偶(第158図-1)

- のうち頭部以外 1点  
九州国立博物館
- 4.1～3.31 特別史跡熊本城跡及び藤崎宮跡  
出土品一括  
熊本城調査研究センター
- 7.30～8.4 掛幅 細川ガラシャ和歌短冊  
個人利用
- 8.1～12.12 引札 人吉市教育委員会
- 9.23～11.29 阿高式土器・三万田式土器・北久  
根山式土器・細型銅剣・銅戈・方  
格規矩鏡など  
糸島市立伊都国歴史博物館
- 10.20～12.12 政府軍投降勧告ビラ・四斤砲弾  
エンフィールド銃・小銃弾  
衆議院憲政記念館
- 10.27～11.4 アクリルケース行灯ケース 5台  
アクリルケース 3台  
熊本市文化振興課
- 1.26～3.31 展示ケース・展示台など一式  
熊本市文化振興課
- イ 資料の特別利用
- (ア) 自然分野
- 4.11 ツキノワグマ頭骨標本 個人利用
- 4.14 貨幣石 株式会社 新興出版社啓林館
- 6.13 ナウマンゾウ化石 山鹿市立博物館
- 9.24 ニホンオオカミ骨格標本 個人利用
- 9.26 カワウソ剥製 個人利用
- 12.23 ツキノワグマ頭骨・ニホンジカ骨格  
個人利用
- 3.7 ツキノワグマ頭骨標本 個人利用
- (イ) 人文分野
- 4.16 田原坂激戦之図 株式会社 文英堂
- 5.1 加藤清正肖像画(市指定文化財)  
株式会社 天夢人
- 5.2 院塚古墳出土画文帯神獸鏡  
小坂大塚古墳 獸像鏡  
玉名図書館付近出土 方格規矩鏡  
九州大学大学院人文科学研究院
- 5.12 田原坂激戦之図 株式会社 悠工房
- 5.20～21 上南部C遺跡出土の土偶 一括  
龍谷大学
- 5.21 近藤樵仙 加藤清正像  
株式会社 ベストセラーズ
- 6.9 熊本城顕彰会写真アルバム  
熊本市文化振興課
- 6.13 政府軍投降勧告ビラ・四斤砲弾  
エンフィールド銃・小銃弾  
衆議院憲政記念館
- 6.14 西南戦争錦絵8点  
四斤山砲砲弾・小銃弾  
株式会社 ケーブルメディアワイワイ
- 6.24 近藤樵仙 加藤清正像  
有限会社 ケイ・コミュニケーションズ
- 6.26 引札 人吉市教育委員会
- 6.30 永嶋孟斎 熊本之賊徒ヲ討伐之図  
銀光 熊本城戦争之図  
株式会社 山川出版社
- 7.1 細川治年元服具足・伝加藤清正所用の鉢金  
個人利用
- 7.1 高橋廣湖 神武東征図  
有限会社 スタジオジップ
- 7.1 田原坂激戦之図・神風連の乱錦絵  
株式会社 悠工房
- 7.3 熊本字地図  
一新まちづくりの会
- 7.16 甲斐青浮 明治時代風俗画  
熊本大学五高記念館
- 7.22 エンフィールドライフル銃の実包写真  
別府大学文化財研究所
- 7.29 崎陽新聞・上京公私諸控  
シーボルト記念館
- 7.29 才園古墳出土 リュウ金獸帯鏡(国重文)  
九州大学大学院人文科学研究院
- 7.30 熊本府絵図(熊本城顕彰会寄託)  
熊本城下絵地図・西南役両軍配備図  
肥藩図巻  
熊本城調査研究センター
- 8.6 北岡古墳出土 鳥文鏡

- 熊本市文化振興課
- 8.8 阿高式土器・三万田式土器・北久根山式土器・細型銅剣・銅戈・方格規矩鏡など  
糸島市立伊都国歴史博物館
- 8.13 鶏卵紙古写真（西南戦争）  
株式会社 碧水社
- 8.25 茶白山ト隈本之絵図  
熊本城調査研究センター
- 8.26 火縄銃  
熊本城調査研究センター
- 9.9 視実等象儀 個人利用
- 9.9 琵琶 個人利用
- 9.10 視実等象儀 個人利用
- 9.11 加藤清正肖像画（市指定文化財）  
NPO 法人 Hand to Land
- 9.18 永嶋孟斎 熊本之賊徒ヲ討伐之図  
株式会社 山川出版社
- 9.24 西南戦争錦絵全18巻 個人利用
- 9.24 視実等象儀 個人利用
- 9.27 江島栄次郎作生人形の脚・腕・頭部・胴部  
NHK
- 9.27 近藤樵仙 加藤清正像 NHK E P
- 10.1 西南戦争錦絵全18巻  
立教大学大学院
- 10.3 西南役両軍配備図・茶白山ト隈本之絵図  
火縄銃 熊本城調査研究センター
- 10.24 田原坂激戦之図  
コーベット・フォトエージェンシー
- 10.24 薩軍投降勧告書写真  
西南戦争当時の砲壘写真  
（熊本城顕彰会寄託）  
株式会社 ベストセラーズ
- 10.28 加藤清正肖像画（市指定文化財）  
株式会社 アバンズゲート
- 11.5 江島栄次郎「清正公一代記」  
生人形9点  
高浜市やきものの里かわら美術館
- 11.7 江島栄次郎「清正公一代記」  
生人形9点 個人利用
- 11.7 田原坂激戦之図  
株式会社 JMC JTB フォト営業センター
- 11.7 清水九左衛門他6名宛て加藤清正書状  
須佐美甚太郎宛て加藤清正知行宛行状  
延岡市教育委員会
- 11.7 甲斐青浮 明治時代風俗画（5枚）  
熊本大学五高記念館
- 11.14 永田家文書 益城町教育委員会
- 12.3 カルタ  
（百人一首・ウンスンカルタ・ほか）  
ミュージックプランニング
- 12.8 鶏卵紙古写真 4点  
熊本焼場方角図  
錦絵 川尻本営之図  
錦絵 鹿児島島の賊軍熊本城激戦図  
株式会社 ブレーン九州映像
- 12.19 縄文式土器（旧北部町太郎迫出土）  
波奈之丸絵図  
エンピール銃  
焼け野原となった熊本城下町  
近藤樵仙 加藤清正像  
浜島書店
- 12.10 近藤樵仙 加藤清正像 NHK E P
- 1.6 田原坂激戦之図 株式会社 旺文社
- 1.21 視実等象儀 NHK E P
- 1.22 大和式（号）犁 くまもと工芸館
- 1.25 檜崎山5号墳出土小札  
九州歴史資料館  
金海博物館（韓国）
- 1.28 西南戦争古写真  
熊日サービス開発株式会社
- 2.3 錦絵「明治十年鹿児島西郷記」  
「画券国史 黒田清隆訪問の図」  
「西郷隆盛愛妾別惜図」  
「島津父子夢中東行の図」  
「隆盛籠城攻之図」  
立教大学大学院
- 2.13 才園古墳出土馬具装着模型  
株式会社 お菓子の香梅
- 2.20、3.6・11・13・20・21・26  
上南部遺跡・新南部遺跡・太郎迫遺跡・



ワクド石遺跡・三万田遺跡出土の土偶

熊本大学文学部歴史学科考古学研究室

- 2.24 才園古墳出土 リュウ金獣帯鏡 (国重文)  
株式会社 洋泉社
- 3.6 西南戦争古写真 個人利用
- 3.9 神風連関係資料  
武雄市歴史資料館
- 3.10 熊本城関係資料17点  
熊本城調査研究センター
- 3.12 近藤樵仙 加藤清正像  
加藤清正肖像画 (市指定文化財)  
株式会社 ティーズ
- 3.12 西南役両軍配備図・茶臼山ト隈本之絵図  
・火縄銃 熊本城調査研究センター
- 3.15 大和号・他5点 個人利用
- 3.17 神風連関係資料  
武雄市歴史資料館
- 3.23 雨乞い太鼓の日覆い・隈本古絵図  
日本民俗学会
- 3.27 田原坂激戦之図 東京書籍株式会社
- 3.31 西南戦争関係資料 (目録番号1～72)・  
宝成就寺文書 (全)・寿福寺文書 (全)  
玉名市立歴史博物館ころこピア
- 3.31 山崎アルバム「明治初年の通潤橋」  
吉田家資料「通潤橋絵葉書」  
山都町教育委員会生涯学習課
- 3.31 田原坂激戦之図 株式会社 悠工房

#### (4) 資料の保存

##### ア 刀剣手入れ

刀剣研磨業者に委託し、収蔵刀剣の調査および保存管理を4回実施した。

##### イ 博物館資料のくん蒸

12月2日から5日にかけて、当館所蔵の歴史・美術工芸資料、民俗資料に対してエキヒュームSによるくん蒸を行った。

##### ウ 雨乞い太鼓と醤油桶の修復・補修

大太鼓は欠損している部品 (皮) を補った。醤油

桶はタガを締めた。



太鼓の修復・補修



桶の修復・補修

- エ 才園古墳出土品 (金属資料) の劣化状況調査  
今後の修復方針を立てるため、才園古墳出土品 (国指定重要文化財：あさぎり町より当館に寄託) について、特に金属資料の劣化状況を調査した。
- (ア) 調査期間 7月29日 (火)～7月30日 (水)
- (イ) 調査場所 熊本県立美術館内
- (ウ) 調査者 公益財団法人元興寺文化財研究所  
研究部金属器保存研究室・土器修復室  
室長 塚本敏夫
- (エ) 立会者 あさぎり町教育委員会 (所蔵者)  
主幹 北川賢次郎  
熊本博物館 (受託者)  
学芸員 美濃口紀子・甲斐由香里
- (オ) 資料取扱者 日本通運 (株) 美術梱包専門
- (カ) 調査結果  
金属資料のうち56点について、「修復対象」とのコメントをいただく (サビほか)。



劣化状況調査 1



劣化状況調査 2

#### オ 才園古墳出土品の修復方針検討

上記の金属資料調査の結果を受けて、今後の修復方針を検討した。

(ア) 期 日 9月26日 (金)

(イ) 場 所 熊本県立美術館内

(ウ) 調査者

・文化庁文化財部美術学芸課

主任文化財調査官 原田昌幸

・熊本県教育庁文化課 参事 池田朋生

・公益財団法人元興寺文化財研究所

研究部金属器保存研究室・土器修復室

室長 塚本敏夫

(エ) 立会者 あさぎり町教育委員会 (所蔵者)

主幹 北川賢次郎

熊本博物館 (受託者)

学芸員 美濃口紀子・甲斐由香里

(オ) 資料取扱者 日本通運 (株) 美術梱包専門

(カ) 作業内容

まず7月末に実施した劣化状況調査の内容につい

て、実物と照合しながら詳細に報告・説明。さらに今後の再保存修理事業立ち上げについて具体的な検討を行う。

#### (キ) 検討結果

前回の修理 (平成5～7年度:3ヵ年) から約20年が経過しているが、その後の劣化は軽微である。但し、約半数の鉄製品に軽微な錆の進行跡 (現在安定)、数点の青銅製品に塩基性の錆の新たな発生が認められる。これらは、タッチアップ修理が必要。また、フェルト台座にテグス緊縛の状況は将来の改善が必要であるとの指摘を受ける。所蔵者 (あさぎり町) にこれらの課題を検討頂き、出来る限り早期に事業希望 (数ヵ年継続) の提出を行うべきである。



修復方針検討 1



修復方針検討 2

#### カ 刀剣研磨および白鞘等制作

短刀 (銘:兼定) を研磨し、新しい白鞘に収めた。

## キ 歴史資料修復

今年度は「球磨川勝景図」(福田太華筆)・「細川藤孝 田邊城籠城之図」の修復を行った。それぞれ損傷箇所を中心に補修し、適宜表装を改めた。

## ク 昆虫化石保存

未固結の砂泥中の昆虫化石について70%アルコール注入を行った。

## (5) 資料整理作業

### ア 考古分野

リニューアルにともなう引越しに向けて、特に寄託資料の分類・整理作業を行った。

### イ 歴史・美術工芸分野

熊本城顕彰会資料について、リストと資料とをつき合わせ、確認作業を行った。

歴史分野では新規受け入れ資料の整理・データベース登録を行った。また、三宅家資料未整理分の整理・データベース登録を行った。その他前年度に引き続き、収蔵庫内の仮整理資料の登録～中性紙箱への移し変えを順次行った。

美術工芸分野では刀剣に関するデータを集約し、現物とつき合わせ、リストの作成を行った。あわせてデータベースの書き換え作業も実施した。

### ウ 民俗分野

糸車に生えたカビや埃を除去し、引越しに向けて梱包準備を行った。

## 5 報 告

### (1) 学校教育支援事業

「ゲストティーチャー派遣授業」

#### ア 実施の経緯

以前から、社会教育・生涯学習施設である博物館と学校との連携(博学連携)については、その必要性・重要性が認められてきた。当館でも様々な教育普及活動を展開しているが、全体的には館内での活

動が多かった。

そこで、リニューアルを機に資料の見直し作業を進めると共に、教材として価値のある資料と学芸員の知識や技能を有効活用するために「ゲストティーチャー派遣授業」を行うことにした。

#### イ 平成26年度の取り組み

派遣授業の実施にあたり、事前に小学校社会科・理科の年間指導計画や、学芸員が提供可能な「学習プログラム」を示した「博物館利用の手引き2014」を作成し、市内全ての小中学校(約140校)に配布した。

平成26年度は小学校2校(A校・B校)を「学校教育支援事業モデル校」に指定し、1校あたり年間20プログラム以上、総授業時数40～50時間程度を目標として派遣授業を行った。

#### ウ ゲストティーチャー派遣授業の内容

##### 【A校での実践(22プログラム:55時間)】

(ア) 3年理科「キャリア教育:学芸員を志して」  
理科の学習が、将来の仕事につながる可能性を秘めた有用な教科であることを、2人の学芸員の体験談をもとに紹介した。

派遣日 9月10日(水)

授業者 山口 瑞貴(植物)

南部 靖幸(地質)

児童数 約80名(3クラス合同1時間)

(イ) 3年理科「いろいろな昆虫の観察」  
教室で「標本」を見せながら授業を行う予定だったが、事前の打ち合わせで「野外観察会」に変更し、近くの遊水地付近で昆虫観察をした。

派遣日 9月16日(火)

授業者 清水 稔(動物)

児童数 約80名(3クラス合同1時間)

(ウ) 3年理科「植物の一生(種子)」

様々な種子の形状には、多くの子孫を残すための工夫と知恵が詰まっていることを紹介した後、いくつかの「種模型」の製作を行った。

派遣日 9月24日(水)  
授業者 山口 瑞貴(植物)  
児童数 約80名(クラス別3時間)

(エ) 6年総合「熊本城にまつわる話」

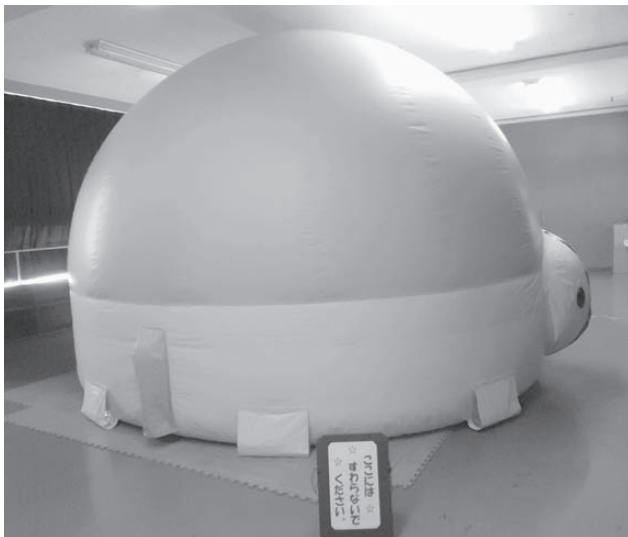
熊本城見学に向けての事前学習会として行った。熊本城の古写真、隈本古絵図の紹介や「お城クイズ」、質疑応答の時間などを設けた。

派遣日 9月24日(水)  
授業者 木山 貴満(歴史)  
児童数 約120名(3クラス合同2時間)

(オ) 4年理科「月や星」

簡易プラネタリウム「星たまご」を使って夏の代表的な星座を紹介した。夏の大三角を構成する星座や一等星について楽しく復習ができた。

派遣日 9月26日(金)  
授業者 権藤 貴士(天文)  
山口 均(理工)  
児童数 約90名(クラス別3時間)



星たまご

(カ) 4年理科「空気や水(力と体積)」

ペットボトルロケットの「発射」を子どもたちの目の前で行った。子どもたちにも一人一回ずつ空気入れて空気を送らせ、期待感を高めた。

派遣日 10月15日(水)  
授業者 山口 均(理工)

児童数 約90名(クラス別3時間)

(キ) 4年理科「体のつくりと運動」

小单元「骨と筋肉」の学習で、テン・ワニ・ヒキガエルなどの骨格標本とヒトの骨格模型を教材として活用し、子どもの興味・関心を高めた。

派遣日 10月22日(水)  
授業者 清水 稔(動物)  
児童数 約90名(クラス別3時間)



骨と筋肉

(ク) 5年理科「流れる水のはたらき」

白川の各流域の写真と河原の石、自作の流水パワー実験教具を準備し、各流域や流れの内側・外側で流水のはたらきが異なることを確かめた。

派遣日 10月22日(水)  
授業者 南部 靖幸(地質)  
児童数 約90名(クラス別3時間)

(ケ) 4年社会「郷土を拓く：通潤橋」

通潤橋支保工模型やイラストを交えて、通潤橋建設の経緯を説明した。通潤橋「渡り初めの草履」の実物に、子どもたちからは驚きの声があがった。

派遣日 10月23日(木)  
授業者 木山 貴満(歴史)  
児童数 約90名(クラス別3時間)

(コ) 6年総合「プチ考古学講座入門」

出土遺物の実物を見たり触れたりする体験を通して、自分たちが住んでいる校区の近くある遺跡や遺

物への興味・関心を高めるようにした。

派遣日 10月31日(金)

授業者 美濃口 紀子(考古)

児童数 約120名(クラス別3時間)

(サ) 6年理科「大地のつくりと変化」

化石がどのようにしてでき、また、地表に現れるのかなど、プレゼンテーションで紹介した。授業後半には化石観察の時間も設けた。

派遣日 11月7日(木)

授業者 南部 靖幸(地質)

児童数 約80名(クラス別2時間)

(シ) 3年総合「博物館の役割」

博物館や美術館の場所、展示物、役割、そして、建物の中での注意事項(禁止事項)などをプレゼンテーションや掲示資料を通して伝えた。

派遣日 11月17日(月)

授業者 甲斐 由香里(保存科学)

児童数 約80名(3クラス合同1時間)



博物館の役割

(ス) 4年理科「ものの温度と体積」

導入(指導者による演示)として、お湯をかけると噴水が上がる装置を見せた。グループごとに追実験(3回)をさせ、課題作りを行った。

派遣日 11月17日(月)

授業者 山口 均(理工)

児童数 約90名(クラス別3時間)

(セ) 3年理科「電気で明かりをつけよう」

豆電球が点いたり消えたりするおもちゃを3種類紹介し、その中の1つを使って一緒に遊んだ。おもちゃの秘密を話し合い、課題作りをした。

派遣日 11月25日(火)

授業者 山口 均(理工)

児童数 約80名(クラス別3時間)

(ソ) 5年理科「ものの溶け方」

単元のまとめとして「ミョウバンの結晶作り」に取り組んだ。温度による食塩とミョウバンの溶け方の違いや、結晶ができる理由を確認した。

派遣日 12月2日(火)

授業者 山口 均(理工)

児童数 約120名(クラス別3時間)

(タ) 3年社会「生活のへんか」

昔の電話機・ランプ・水筒・アイロンなどの実物資料を提示した。化学製品や電化製品の登場による生活の変化について話し合った。

派遣日 1月9日(金)

授業者 福西 大輔(民俗)

児童数 約80名(クラス別3時間)



生活の変化

(チ) 6年社会・図工「室町文化：水墨画」

歴史(社会)と図工の合科的な学習に取り組んだ。水墨画の歴史や「雪舟」について資料を元に説明した後、全員で水墨画に挑戦した。

派遣日 1月27日(火)

授業者 甲斐 由香里 (保存科学)  
児童数 約120名 (3クラス合同：2時間)

(ツ) 4年理科「ものの温まり方」

ヨウ素でんぷん液は温まると透明 (少し白濁) になる様子から、水は上の方から温まることや金属の温まり方とは異なることを確かめた。

派遣日 1月16日 (金)  
授業者 山口 均 (理工)  
児童数 約60名 (クラス別2時間)

(テ) 3年理科「ものと重さ」

フィルムケースに入れた重さの異なる3種類のを準備し、手に持ったり天秤を使ったりしてグループごとに重さ比べに挑戦した。

派遣日 2月13日 (金)  
授業者 山口 均 (理工)  
児童数 約80名 (クラス別3時間)

(ト) 5年社会「自然災害を防ぐ」

熊本の「6.26水害」の記録写真をもとに、被害の大きさを視覚的に訴えるとともに防災について考え、防災意識を高める機会とした。

派遣日 2月26日 (木)  
授業者 木山 貴満 (歴史)  
児童数 約90名 (クラス別3時間)



自然災害を防ぐ

(ナ) 6年理科「発電と電気の利用」

電熱線スライサーで発泡スチロールをスライスし、それを利用したグライダー作りを行った。電熱

線の太さと発熱量の違いも実験で確かめた。

派遣日 2月26日 (木)  
授業者 山口 均 (理工)  
児童数 約120名 (クラス別3時間)

(ニ) 6年理科「自然とともに生きる」

自然界で有機物が分解され、「食う・食われる」関係を通じて生態系内を循環するしくみや、そのバランスが崩れる原因について解説を行った。

派遣日 3月2日 (月)  
授業者 清水 稔 (動物)  
児童数 約120名 (クラス別3時間)

【B校での実践 (26プログラム：46時間)】

(ア) 4年総合「江津湖の生き物」

野外観察を行う予定であったが、天候不順のため、プレゼンテーション資料をもとに屋内で江津湖に生息する生き物について解説した。

派遣日 9月5日 (金)  
授業者 清水 稔 (動物)  
児童数 約60名 (2クラス合同2時間)

(イ) 6年社会「新しい世の中」

明治維新による日本の急激な変化。このとき熊本はどのように変化していったのか、熊本洋学校を例に挙げ、資料を交えて紹介した。

派遣日 9月22日 (月)  
授業者 木山 貴満 (歴史)  
児童数 約60名 (クラス別2時間)

(ウ) 3年理科「植物の一生」

様々な種子の形状には、多くの子孫を残すための工夫と知恵が詰まっていることを紹介した後、いくつかの「種模型」の製作を行った。

派遣日 9月22日 (月)  
授業者 山口 瑞貴 (植物)  
児童数 約50名 (2クラス合同1時間)



植物の一生

(エ) 6年理科「水溶液の性質」

リトマス紙の代用指示薬として活用できる「ムラサキキャベツ紙」作りを行った。酸性・中性・アルカリ性域での色変化を楽しむことができた。

派遣日 9月24日(水)

授業者 山口 均(理工)

児童数 約60名(クラス別2時間)

(オ) 5年理科「キャリア教育：学芸員を志して」

理科の学習は将来の仕事につながる可能性を秘めた有用な教科である。学芸員を志した理由、その他を2人の学芸員が体験談をもとに紹介した。

派遣日 9月24日(水)

授業者 清水 稔(動物)

山口 瑞貴(植物)

児童数 約60名(2クラス合同1時間)

(カ) 5年理科「流れる水のはたらき」

白川各流域の写真と河原の石、自作の流水パワー実験教具を準備し、各流域・流れの内側・外側で流水のはたらきが異なることを視覚化した。

派遣日 10月9日(木)

授業者 南部 靖幸(地質)

児童数 約60名(2クラス合同1時間)



流れる水の働き

(キ) 4年理科「水や空気(力と体積)」

ペットボトルロケットの「発射」を子どもたちの目の前で行った。子どもたちにも一人一回ずつ空気入れて空気を送らせ、期待感を高めた。

派遣日 10月9日(木)

授業者 山口 均(理工)

児童数 約60名(クラス別2時間)

(ク) 6年社会「発展する産業(明治)」

身近に残る明治の工場跡の映像資料や実物の繭などを用いて学習を進めた。熊本における木綿と絹の産業について紹介した。

派遣日 10月10日(金)

授業者 福西 大輔(民俗)

児童数 約60名(クラス別2時間)

(ケ) 4年社会「郷土を拓く：通潤橋」

通潤橋支保工模型やイラストを交えて、通潤橋建設の経緯を説明した。通潤橋「渡り初めの草履」の実物に、子どもたちからは驚きの声があがった。

派遣日 10月16日(木)

授業者 木山 貴満(歴史)

児童数 約60名(クラス別2時間)

(コ) 6年理科「月と太陽」

望遠鏡を2台準備し、観測する際の注意事項に続けて太陽と月の表面観察を行った。初めて望遠鏡を覗く子どもが多く興味深い観察会となった。

派遣日 10月17日(金)  
授業者 権藤 貴士(天文)  
南部 靖幸(地質)  
児童数 約60名(クラス別2時間)

(サ) 6年理科「大地のつくりと変化」  
化石がどのようにしてでき、また、地表に現れるのかなど、プレゼンテーションで紹介した。授業後半には化石観察の時間も設けた。

派遣日 11月12日(水)  
授業者 南部 靖幸(地質)  
児童数 約60名(クラス別2時間)

(シ) 4年理科「体のつくりと運動」  
小单元「骨と筋肉」の学習。テン・ワニ・ヒキガエルなどの骨格標本とヒトの骨格模型を比較することで、より深い理解を促した。

派遣日 11月13日(木)  
授業者 清水 稔(動物)  
児童数 約60名(クラス別2時間)

(ス) 6年社会「戦争と人々の暮らし」  
配給切符・婦人部タスキ・木銃・千人針など、複数の実物や関連する資料を元に、戦時中の暮らしについて深い理解ができるように努めた。

派遣日 11月14日(金)  
授業者 福西 大輔(民俗)  
児童数 約60名(2クラス合同1時間)

(セ) 6年総合「博物館の役割」  
修学旅行での原爆資料館見学を控えた子どもたち向けに、資料鑑賞の仕方や館内でのマナー等について博物館を例に挙げながら解説した。

派遣日 11月18日(火)  
授業者 甲斐 由香里(保存科学)  
児童数 約60名(2クラス合同1時間)

(ソ) 4年理科「ものの温度と体積」  
導入(指導者による演示)として、お湯をかけると噴水が上がる装置を見せた。グループごとに追実

験(3回)をさせ、課題作りを行った。  
派遣日 11月18日(火)  
授業者 山口 均(理工)  
児童数 約60名(クラス別2時間)

(タ) 3年理科「電気で明かりをつけよう」  
豆電球が点いたり消えたりするおもちゃを3種類紹介し、その中の1つを使って一緒に遊んだ。おもちゃの秘密を話し合い、課題作りをした。

派遣日 11月26日(水)  
授業者 山口 均(理工)  
児童数 約50名(クラス別2時間)



電気で明かりをつけよう

(チ) 4年理科「月や星」  
簡易プラネタリウム「星たまご」を使い、夏から冬にかけての代表的な星座を紹介した。オリオン座の解説は、冬の星空観察の動機付けとなった。

派遣日 11月27日(木)  
授業者 権藤 貴士(天文)  
山口 瑞貴(植物)  
児童数 約60名(クラス別2時間)

(ツ) 5年理科「ものの溶け方」  
単元のまとめとして「ミョウバンの結晶作り」に取り組んだ。温度による食塩とミョウバンの溶け方の違いや、結晶ができる理由を確認した。

派遣日 11月27日(木)  
授業者 山口 均(理工)  
児童数 約60名(クラス別2時間)



(テ) 3年理科「電気で明かりをつけよう」

電気を通すものと通さないものを調べるチェッカーと「調べるものセット」を準備して臨んだ。電気を通すものは金属であることを確認した。

派遣日 12月1日(月)

授業者 山口 均(理工)

児童数 約50名(クラス別2時間)

(ト) 5年図工「作品鑑賞のヒントを学ぼう」

観賞用図版を準備し、自作ワークシートの設問に沿って学習を進めた。作品から聞こえてくる音を想像をさせるなど、鑑賞法のヒントを与えた。

派遣日 12月5日(金)

授業者 伊藤 加奈子(美術工芸)

児童数 約60名(2クラス合同1時間)



作品鑑賞のヒント

(ナ) 支援学級生活単元「好きな色を見つけよう」

好きな色をテーマに、その色で自分の名前を書いたり教室で「好きな色探し」をしたりする活動を行った。好きな色での塗り絵も楽しんだ。

派遣日 12月11日(木)

授業者 伊藤 加奈子(美術工芸)

児童数 7名(2クラス合同1時間)

(ニ) 3年社会「生活のへんか」

昔の電話機・ランプ・水筒・アイロンなどの実物資料を提示した。化学製品や電化製品の登場による生活の変化について話し合った。

派遣日 1月28日(水)

授業者 福西 大輔(民俗)

児童数 約50名(クラス別2時間)

(ヌ) 4年社会「昔から作られてきたもの」

小袋焼や肥後象嵌などの特徴をクイズ形式で紹介したり、伝統的工芸士からお聞きした話を伝えたりして伝統的工芸(品)への理解を促した。

派遣日 1月28日(水)

授業者 伊藤 加奈子(美術工芸)

児童数 約60名(クラス別2時間)

(ネ) 5年理科「電磁石のはたらき」

「コイルモーター」作りを行った。電磁石(コイル)と永久磁石の組み合わせで回転するものができることを体験的に学ばねらいで実施した。

派遣日 2月3日(火)

授業者 山口 均(理工)

児童数 約60名(クラス別2時間)

(ノ) 3年社会「受け継いできたまつり」

神楽鈴・もぐら打ち・カセドリ馬などを提示し、季節の祭りや家庭・地域での年中行事を紹介するとともに、祭りの社会的な役割を伝えた。

派遣日 2月4日(水)

授業者 福西 大輔(民俗)

児童数 約50名(クラス別2時間)

(ハ) 4年総合「校区近隣の遺跡・遺物」

学校敷地内および近隣地域からの出土遺物を見たり触れたりする体験を通して、身近な校区内の遺跡や遺物への興味・関心を高めるようにした。

派遣日 2月18日(水)

授業者 美濃口 紀子(考古)

児童数 約60名(クラス別2時間)



校区近隣の遺跡

## (2) 子ども科学・ものづくり教室

### ア 実施の経緯

博物館はこれまで、自然・文化・歴史などの保存・継承さらには発信の拠点としての役割を果たしてきた。これに加え、近年は多様化・高度化する人々のニーズに対応した学習活動の支援をはじめ、多様な機能を発揮することが求められている。

このような中、当館では青少年が楽しく活動しながら自然科学の原理や技術（歴史や伝統文化なども一部含む）を体験的に学ぶことのできる機会を提供する目的で、「子ども科学・ものづくり教室」を開催している。

### イ 平成26年度の取り組み

近年は、館外の教育機関や諸団体とも連携しながら年間25回を超える教室を運営してきた。

平成25年度はリニューアル準備のため本館での活動は困難との判断から、会場を塚原歴史民俗資料館（以下「塚原資料館」）に移し、基本的には担当の研究員一人に対応可能な回数・内容に絞り込んで合計16回の教室を開催した。

平成26年度もリニューアル準備期間中であつたが本体への着工は行われなるとの見通しから、会場を本館特別展示室（以下「特別展示室」）と塚原資料館の2ヶ所に増やして全：32回の教室を開催した。

内容は、理工分野に関するテーマがほとんどであるが、植物・考古・地質分野に関する内容も各学芸

員に依頼して2回ずつ行った。また、熊本市「ものづくりサークル」にも2回の教室で実技補助等の協力をしていただいた。

### ウ 子ども科学・ものづくり教室の内容

#### (ア) 合金で巴形銅器のレプリカを作ろう

南区城南町にある構口（かまえぐち）遺跡より出土した弥生時代の青銅器：巴形銅器の縮小鋳型に融かした低融点合金を流し込み、レプリカ作りに取り組んだ。

日時 ① 5月24日（土）

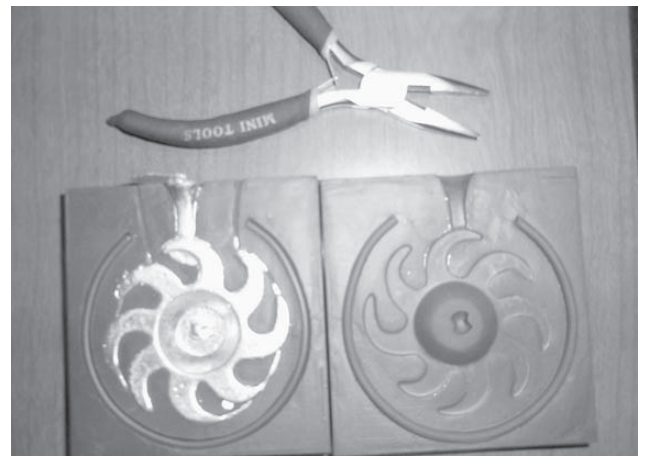
② 5月25日（日）

13時30分～15時

指導者 清田 純一（考古）

山口 均（理工）

参加者 30名



巴形銅器レプリカ

#### (イ) 葉脈標本でしおりを作ろう

葉脈の種類と働きについて解説したあと、水酸化ナトリウム水溶液で処理したヒイラギ・ヒイラギモクセイの2種類の葉から葉肉を剥ぎ落とし、残った葉脈をラミネート加工して「しおり」に仕立てた。

日時 ① 6月21日（土）

② 6月22日（日）

13時30分～15時

指導者 山口 瑞貴（植物）

山口 均（理工）

参加者 38名

(ウ) 宙返りバードを作ろう

畳などの断熱材として使われるスタイロフォームを、電熱線カッターで1mm程度の厚さにスライスしておく。それをハサミで定型に切り取り、鳥の形に組み立てた。鳥の頭部に厚紙のおもりをつけて飛ばすと、空中で後方宙返り（一回転）をする。その不思議な飛び方に、子どもたちからは大きな歓声があがった。

日時 ① 7月19日（土）  
② 8月17日（日）  
13時30分～14時30分

指導者 山口 均（理工）  
参加者 48名

(エ) 水中UFOキャッチャーを作ろう

浮力について体験的に学ぶことのできるものづくりである。水を満たした炭酸系のペットボトル（500ml）に、水と空気の量を調節した金属フック付きの浮沈子（魚型たれピン）を入れる。

ペットボトルに力を加えて浮沈子を沈め、水中のリングをフックで釣り上げようと奮闘した。

日時 ① 7月20日（日）  
② 8月16日（土）  
13時30分～15時

指導者 山口 均（理工）  
参加者 76名



水中 UFO キャッチャー

(オ) 紙パックカメラを作ろう

光学レンズの働きについて理解を促すために紙パック（や工作用紙）とレンズを組み合わせて簡易カメラを製作した。写真撮影はピントの調節が難しかったが、楽しい活動ができたように思う。スクリーン上に結ばれた像が、上下左右逆転する画像も確認できた。7月26日には、文部科学省生涯学習政策局・社会教育課からの視察も受けた。

日時 ① 7月26日（土）  
② 8月23日（土）  
13時30分～15時

指導者 山口 均（理工）  
参加者 66名



紙パックカメラ

(カ) くるくる回るシャボン玉を作ろう

マジックで赤・緑・青（光の三原色）に着色したOHPシートを6mm幅で細く切ったものを準備する。色を塗らない無色透明のシートも含めて各2枚ずつ、合計8枚をボール状に組み立て、軸をゆっくり回すと三色の残像が重なり合って本物のシャボン玉のように見える。意外な驚きのあるものづくり体験となった。

実物写真は昨年度の館報を参照のこと。

日時 ① 7月27日（日）  
② 11月24日（月・振休）  
13時30分～15時

指導者 山口 均（理工）  
参加者 85名

(キ) おもしろ実験に挑戦!

色と光、振動と回転等をテーマに、複数の実験・工作・体験コーナーを準備した。

光の全反射を利用した実験・工作、ムラサキキャベツの色変化を楽しむ「お絵かき」、振動を回転に変える「ガリガリとんぼ」の体験コーナーなど、たっぷり不思議な時間を楽しんでいただいた。

日時 ① 8月2日(土)

② 10月25日(土)

13時30分～15時30分

指導者 山口 均(理工)

参加者 47名



おもしろ実験の様子

(ク) 活性炭電池を作ろう

冷蔵庫内の脱臭や水槽内の水質浄化にも利用されている活性炭を使って電池作りを行った。電池は身の回りの材料でも簡単に作ることができ、その電池でモーターを回したり電子オルゴールを響かせたり低電圧LED豆電球(極性に注意が必要)を光らせたりする体験の場を設けた。

基本的な電池の仕組みについてもモデル図を示して解説した。

日時 ① 8月3日(日)

② 12月20日(土)

13時30分～15時

指導者 山口 均(理工)

参加者 53名

(ケ) 科学手品と液体窒素実験ショー

家庭でも簡単にできる科学手品(空気中に浮かぶスチロール球、落ちない水と落ちないリング、水中で消える絵・見える絵「えっ!?!」)を披露したり、液体窒素実験ショーを行ったりした。ショーの間には科学手品に関連する「ものづくり」ブースも準備し、2時間たっぷり科学の楽しさに浸ってもらった。

地質担当学芸員による液体窒素実験ショーは20分の枠で3回開催したが、3回とも最前列で鑑賞する親子連れが何組もあって大人気だった。

この教室は、熊本市「ものづくりサークル」にも製作補助として協力を仰いだ。

日時 ① 8月9日(土)

② 2月21日(土)

13時30分～15時30分

指導者 山口 均(理工)

南部 靖幸(地質)

協力者 ものづくりサークル会員6名

参加者 254名



液体窒素実験ショー

(コ) 大気圧と真空の実験ショー

生きるために必要不可欠なものでありながら、普段はその存在すら意識することの少ない「空気」をテーマにしたショーを行った。ゴム吸盤のパワー、手作りマグデブルグ半球、つぶれるペットボトル・アルミニウム缶、真空ポンプを使った「膨らむ風船・水の減圧沸騰」などを披露した。

日時 ① 8月10日(日)

② 9月21日(日)

※ 午後の時間帯に3回実施

13時30分～、14時30分～、

15時30分～（各25分）

指導者 山口 均（理工）

参加者 98名



大気圧実験ショー

（サ）アンモナイトのレプリカを作ろう

地質担当学芸員の全面協力によって開催できた教室である。アンモナイトの型枠に石膏を流し込んで固めた後、型枠から外して墨を塗ると、なかなかの出来栄えのアンモナイトが目の前に現れる。石膏が固まる時間や製作後の時間帯にはアンモナイトに関するプレゼンテーションでの解説も行った。現生のオウムガイとの比較などもあり、興味深い教室運営ができた。

日時 8月24日（日）

（特別展示室で1回だけの開催）

13時30分～15時

指導者 南部 靖幸（地質）

山口 均（理工）

参加者 18名



アンモナイトのレプリカ

（シ）コイルモーターを作ろう

有名な「フレミングの左手の法則」について学ぶものづくりを行った。コイルの形を円形に保持したり、エナメル線の巻き始め・巻き終わりを紙やすりで剥がしたりする作業が難しかったようだが、製作補助具を工夫することで参加者全員、見事にコイルを回転させることができた。

（製作補助具：コイルを巻くための「木片（切れ込み付き）」や、コイルを挟み込んでコイルの形が崩れないようにする工作用紙を用いた「コイル挟み」等）

日時 ① 9月20日（土）

② 1月24日（土）

13時30分～15時

指導者 山口 均（理工）

参加者 54名



コイルモーター

（ス）箱の中に虹を作ろう

工作用紙で作った箱の底面には覗き窓を開け、そこに分光シートを取り付ける。もう一方の底面にはスリット窓を開け、簡単な線や記号をカッターで切り抜いた画用紙をセットする。覗き穴に目を近づけ、スリット窓を蛍光灯などの光源に向けると（太陽を直接見てはいけない）、切り抜いた形がそのまま虹色のスペクトルとなる。この虹は、切り抜いた形を中心として上下左右斜め方向8ヶ所で観察できる。波長の違いによる光の屈折についても解説した。

日時 ① 10月18日（土）

② 3月15日(日)

13時30分～15時

指導者 山口 均(理工)

参加者 71名

(セ) 空気砲ボウリングを楽しもう

ダンボールで作るおなじみの「空気砲」。

「渦輪」ができる仕組みを空気の性質と絡めて説明したあと、親子で製作に取り組んだ。プラスチックコップをボウリングのピン状に6～10個並べ、数m離れた場所から空気砲で倒して遊んだ。倒したピンの数を競う親子の姿が印象に残った。

「渦輪」の形については、空気砲の中にスモークを溜めて打ち出し、ドーナツの形をしていることを全員で確認した。

日時 ① 11月22日(土)

② 2月22日(日)

13時30分～14時30分

指導者 山口 均(理工)

参加者 48名



空気砲ボウリング

(ソ) 静電気実験ショー

秋から冬にかけて誰もが経験することのある「静電気」をテーマに、いくつかの実験や現象を紹介した。下敷きで髪の毛を擦って引き寄せる簡単な実験から、バンデグラフを使った火花放電まで、参加者は興味津々の様子で見入っていた。

電気コップを使った「百人脅し」やビニル紐を帯電させた「電気くらげ」は、ショーの終了後、自由

体験の時間を設けた。

日時 12月6日(日)

(塚原資料館で1回だけの開催)

※ 午後の時間帯に3回実施

13時30分～、14時30分～、

15時30分～(各25分)

指導者 山口 均(理工)

参加者 7名

(タ) 静電気グッズをつくろう

上述した「静電気実験ショー」で披露していた2種類の「静電気グッズ」を作った。

静電気実験で定番の「電気くらげ」と、百人脅しに用いる「電気コップ(簡易ライデン瓶)」である。製作と体験を通して、静電気が引き起こす現象への興味・関心を高めるねらいで行った。

バチッ!ビリッ!と、ちょっとだけ痛い思いをして顔が緊張している子どももいたが、恐る恐る繰り返す様子にホッとした。

日時 ① 12月14日(日)

② 1月25日(日)

13時30分～14時30分

指導者 山口 均(理工)

参加者 18名



静電気グッズ

(チ) 風船CDホバークラフトを作ろう

外から力が加わらなければ静止しているものはずっと動かず、動いているものは等速直線運動を続

けるという「慣性の法則」と、動きに抗う「摩擦力」について学ぶものづくり。

CDホバークラフトの後ろを楽しそうについて行く子どもたちの姿があった。「慣性の法則」の補足実験として、市販の「だるま落とし」も準備した。

日 時 ① 12月21日(日)

② 3月7日(土)

13時30分～14時30分

指導者 山口 均(理工)

参加者 25名



風船CDホバークラフト

### (3) 総合的な学習など学校行事と博物館

#### ア 画図小学校4年総合的な学習

日 時 6月10日(火)

14時5分～14時50分

場 所 画図小学校西プレハブ校舎1階

内 容 江津湖に生息する生物についての話

参加者 児童180名(4年生+6年生1クラス)

講 師 清水 稔(動物)

#### イ 泉ヶ丘小学校4年総合的な学習

日 時 9月5日(金) 9時45分～11時30分

場 所 泉ヶ丘小学校ランチルーム

内 容 江津湖に生息する生物についての話

参加者 児童60名

講 師 清水 稔(動物)

#### ウ 託麻北小学校第2学年PTA活動

日 時 9月7日(日)

11時～12時

場 所 博物館特別展示室(奥)

内 容 科学・ものづくり各種

参加者 132名(児童・保護者・教師)

講 師 山口 均(理工)

#### エ 大江小学校3年 総合的な学習

日 時 9月8日(月)

9時40分～11時25分

場 所 大江小学校 図工室

内 容 「種子」についての紹介と工作

参加者 児童68名

講 師 山口 瑞貴(植物)

#### オ 清水小学校第1学年PTA活動

日 時 10月26日(日)

10時～12時

場 所 清水小学校体育館

内 容 科学・ものづくり各種

参加者 89名(児童・保護者・教師)

講 師 山口 均(理工)

#### カ 力合西小学校特別支援学級PTA活動

日 時 10月30日(木)

13時30分～16時

場 所 支援学級教室

内 容 科学・ものづくり各種

参加者 16名(児童・保護者・教師)

講 師 山口 均(理工)

#### キ 画図小学校6年 総合的な学習

日 時 10月31日(金)

13時30分～15時30分

場 所 画図小学校 体育館

内 容 江津湖の成り立ちについて

参加者 第6学年 148人

講 師 木山 貴満(歴史)

#### ク 甲佐町立白旗小学校第5学年PTA活動

日 時 11月9日(日)

10時～11時30分

場 所 塚原歴史民俗資料館

内 容 コイルモーター作り

参加者 33名(児童・保護者・教師)

講 師 山口 均(理工)

#### ケ 熊本県立宇土中学校1年生キャリア教育

日 時 12月19日(金)

9時45分～11時35分

場 所 宇土中学校技術家庭科棟学習室A・B

内 容 職業講話「学芸員の仕事」

参加者 熊本県立宇土中学校1年生80名

講 師 清水 稔(動物)

### (4) 学校以外への講師参加

#### ア 「地質の日」企画

「身近に知る『くまもとの大地』」

主 催 「地質の日」くまもと実行委員会、  
熊本県松橋収蔵庫

日 時 5月10日(土)10時～16時

場 所 熊本県松橋収蔵庫

内 容 体験コーナー 熊本博物館担当分

・重鉱物の採集法の擬似体験

・フズリナ磨り出し体験

フズリナ化石を含む石灰岩を研磨し、  
化石を観察する体験

参加者 105名

(重鉱物45名、フズリナ60名)

講 師 南部 靖幸(地質)

山口 均(理工)

協力者 北村 直司 氏

#### イ 生涯学習「ふれあい出前講座」

日 時 5月17日(土)

10時～12時

場 所 南陽台公民館

内 容 熊本城のおはなし

参加者 地域住民 約40名

講 師 木山 貴満(歴史)

#### ウ 生涯学習「ふれあい出前講座」

日 時 7月5日(土)

8時～8時15分

場 所 熊本城三の丸 第2駐車場

内 容 熊本城のおはなし

参加者 熊本城清掃ボランティア250名

講 師 木山 貴満(歴史)

#### エ 立田山自然探検隊7月例会

日 時 7月6日(日)

10時～12時

場 所 熊本市立田山「お祭り広場」

内 容 「里山の昆虫」観察会

参加者 22名

講 師 清水 稔(動物)

#### オ 画図小学校家庭教育学級

日 時 7月23日(水)

10時～12時

場 所 熊本市上江津湖

内 容 江津湖に生息する生物の観察会

参加者 60名

講 師 清水 稔(動物)

#### カ 夏休み子ども企画「寺子屋塾」

主 催 山鹿市立博物館

日 時 8月3日(日)13時～14時

場 所 山鹿市立博物館

内 容 アンモナイトのレプリカ作り

参加者 32名

講 師 南部 靖幸(地質)

#### キ 池田町6-1町内自治会・教養講座

日 時 8月23日 10時～11時30分

場 所 長迫公民館

内 容 「雨乞い太鼓が語る地域の歴史」

参加者 池田町6-1町内自治会住民 35名

講 師 福西 大輔(民俗)



ク 熊本県立美術館学芸員資格取得課程実習に伴う  
講師の派遣

日 時 8月28日(木) 9時～12時  
場 所 県立美術館本館  
内 容 熊本城及び周辺施設の視察案内  
参加者 各大学実習生  
講 師 木山 貴満(歴史)

ケ 水辺散策会

主 催 熊本市水の科学館  
日 時 9月23日(火・祝)  
10時～11時30分、13時～14時30分  
場 所 水の科学館周辺  
内 容 自然観察会  
参加者 24名  
講 師 清水 稔(動物)

コ 熊本城子どもわくわく体験学習

日 時 10月5日(日) 14時～15時30分  
会 場 熊本市役所14階大ホール  
内 容 「熊本城のおはなし」、「加藤清正をあて  
よう」  
参加者 熊本市内小学生と保護者  
講 師 木山 貴満(歴史)  
伊藤 加奈子(美術工芸)

サ 曹洞宗熊本県第一宗務所・現職研修会

日 時 10月9日(木)  
16時10分～17時40分  
場 所 大慈寺  
内 容 「ハンセン病と清正公信仰」  
参加者 熊本県内曹洞宗僧侶  
講 師 福西 大輔(民俗)

シ 弓削校区青少年健全育成協議会「星を見る会」

日 時 10月18日(土)  
19時～21時  
場 所 弓削地域コミュニティセンター  
内 容 天体観察(夏の大三角・アルビレオ)  
月および皆既月食について

プラネタリウム秋番組「ジャーニー・  
トゥ・スターズ」の紹介

参加者 幼児、小・中学生、一般 60名  
講 師 榎藤 貴士(天文)  
山口 均(理工)

ス 生涯学習「ふれあい出前講座」

日 時 10月21日(火)  
13時30分～15時30分  
場 所 新土河原公民館  
内 容 熊本城のおはなし  
参加者 地域住民 32名  
講 師 木山 貴満(歴史)

セ 曹洞宗熊本県第一宗務所・寺族研修会

日 時 10月25日(土) 9時～11時  
場 所 リデルライト両女史記念館  
内 容 「ハンセン病と清正公信仰」  
参加者 熊本県内曹洞宗僧侶の家族  
講 師 福西 大輔(民俗)

ソ 親子環境探検隊

主 催 熊本市環境総合センター  
日 時 10月26日(日)  
9時30分～12時30分  
場 所 金峰山少年自然の家周辺  
内 容 自然観察会  
参加者 56名  
講 師 清水 稔(動物)

タ 「いきがい塾」

主 催 室原内科・小児科  
日 時 11月11日(火) 14時～15時  
場 所 室原内科・小児科3階ホール  
内 容 「熊本の火山のお話」  
参加者 10名  
講 師 南部 靖幸(地質)

チ 熊本県神道青年会勉強会

日 時 12月3日(水)

場 所 熊本県神社庁  
内 容 加藤清正と熊本城について  
参加者 熊本県神道青年会 20名  
講 師 木山 貴満 (歴史)

授業研究会での講評と助言

参加者 教職員 12名  
講 師 山口 均 (理工)

ツ 島田美術館ギャラリートーク

日 時 12月20日 (土) 11時～12時30分  
場 所 島田美術館  
内 容 「江戸の化粧術について」  
参加者 18名  
講 師 伊藤 加奈子 (美術工芸)

テ 生涯学習「ふれあい出前講座」

日 時 1月16日 (金)  
16時～17時  
場 所 株式会社 日立製作所  
内 容 熊本城のおはなし  
参加者 日立グループ会社社員 20名  
講 師 木山 貴満 (歴史)

(5) ナイス・トライ事業の受け入れ  
休館準備にともない受け入れを行わなかった。

(6) 熊本県公立学校教員短期社会体験研修  
休館準備にともない受け入れを行わなかった。

(7) 教職員研修

ア 環境教育指導者研修会  
日 時 8月22日 (金) 終日  
場 所 熊本市環境総合センター  
内 容 生物多様性について  
参加者 熊本市小中学校教員 3名  
講 師 清水 稔 (動物)

イ 銭塘小学校 校内研修 (授業研究会)

日 時 11月25日 (火)  
14時～16時40分  
場 所 銭塘小学校理科室  
内 容 第4学年理科学習  
「ものの温度と体積」授業参観及び

## 6 調査・研究及び刊行物

(1) 調査・研究

ア 基本的な考え方

博物館における調査・研究活動は、資料の収集・保存・展示・教育普及活動の根幹を成すものであり、当博物館の基本構想および理念を基本とし、次の点に留意して行う。

- その成果が市民に還元できるものであること。
- 当館の設立主旨に沿ったものであること。
- 将来、展示に活かされるものであること。
- 科学的・客観的なものであること。

イ 調査・研究の目標

(ア) 館共通

熊本の歴史と自然および科学技術についての研究を行う。

(イ) 分野別

【地質分野】

熊本県内を中心に地質・化石の調査を行う。

【動物分野】

熊本県内の動物分布に関する調査を行う。

【植物分野】

熊本県内の植物分布に関する調査を行う。

【理工分野】

楽しく活動しながら自然科学の原理や技術について体感できるような体験型プログラムの開発を目指すとともに、理工分野の新たな展示のあり方について調査・研究する (先進都市などの手法を参考にしながら)。

【考古分野】

熊本県内の埋蔵文化財に関する調査・研究を行う。また、寄贈されたコレクションについては、県外の資料についても調査・研究を行う。

収蔵資料の多くは未整理なので、分類・整理・資料紹介に努め、市民や研究者などに、幅広く活

用いただくことを目的とする。

#### 【民俗分野】

熊本博物館所蔵の資料整理ならびに展示をすすめる、市民や来館者に新たな情報を提供することを目的とする。

#### 【歴史・美術工芸分野】

熊本博物館所蔵資料の調査・整理を行い、歴史・美術史・工芸史の観点からの研究をすすめる、市民や来館者への情報提供、展示に活用するための準備に努める。

#### 【保存科学分野】

熊本博物館の館内環境を調査し、展示品や収蔵品に適切な状態を保つことを目的とする。また、資料の修復などについて担当学芸員と相談の上、適切な処置の方法を考える。

ウ 平成26年度 調査・研究の目標および活動

#### 【地質分野】

県内の主要化石産地視察  
館蔵化石資料の整理・再調査  
阿蘇中岳火山噴火の写真撮影と噴出物採集

#### 【動物分野】

金峰山山系および江津湖の動物相調査

#### 【植物分野】

金峰山および江津湖の植生調査

#### 【理工分野】

- ・子どもの心の中に「不思議のタネ」をまくための科学実験・科学工作等の開発・充実。
- ・小学校の授業に活用できる学習プログラムや教材・教具等の開発・改善。

#### 【考古分野】

- ・「熊本市稲荷山古墳出土遺物の研究」
- ・「総合博物館における分野融合展示・コラボ企画の試み

—考古分野からのアプローチ例—

- ・「藤崎八幡宮跡出土遺物の研究  
—藤崎台県営野球場とその周辺の遺構の変遷—」

#### 【民俗分野】

熊本博物館所蔵資料の整理・調査。特に雨乞い太鼓や肥後掬の調査を行った。

#### 【歴史・美術工芸分野】

両分野に共通するものとして、熊本城顕彰会資料をはじめとする寄託資料の確認・整理作業。

歴史分野では館内仮整理資料の情報把握に努め、それぞれ中性紙箱への移し変えを順次実施。

美術工芸分野では、刀剣等の資料に関する情報を整理し、記録化。

#### 【保存科学分野】

館内環境（温湿度・浮遊塵・浮遊菌等）を測定し、年間を通じての動向を調査・比較。

## (2) 刊行物

ア 熊本博物館館報 No.26 (2013年度報告)

イ 宮代栄一・林田和人・美濃口紀子2014

「熊本市稲荷山古墳出土遺物の研究」

『古文化談叢』第71集